

静大と漁田のレビュー：2002－2010

1. 静岡大学 2004 年度から法人化（独立行政法人と同種の国立大学法人）

(1) 独立とは名ばかり。より強化された文科省支配

運営費交付金の減額。このまま行けば、阪大+九大が消えるか、地方大学が十数個消える。

(2) 民主的運営の崩壊：大学の自治は死語の世界

- ・学長を選べない大学。教員も意向投票。
- ・学長と4名の理事（含む1名の天下り）が役員会。
- ・各部局から学部長+2名の評議員で構成していた評議会は権限なし。教授会は形だけ。学科会は規定もなし。

(3) 周回遅れの成果主義

- ・中期目標，中期計画。すぐに成果のでる教育・研究，実学重視。基礎研究＝ジャガイモの死。
- ・中期計画の行程表に従って，毎年評価。□業務実績確認書
このような行程表のない霞ヶ関。マニフェストをすぐ放棄する政権。
- ・4年目に法人評価 4年目から2年がかりで悪戦苦闘。
- ・5年目に認証評価 これに向けて，自己評価（400ページの自己評価書），外部評価。

漁田は，2004年度：学科長，2005年度：点検評価副委員長，2006-2010年度：点検評価委員長

(4) 莫大な無駄・権益・天下り

- ・顧問弁護士の莫大な雇用費。
国立大学時代は，訴訟は法務局が一手に引き受ける。問題があれば，国が賠償。
- ・1大学に最低1名の天下り理事 全国で90以上，おそらくは三桁の天下り先の確保
- ・ある教育担当理事の趣味で，静岡大学60年史。300万円もの予算と莫大な労力の浪費。
- ・第1期中期計画で，11億円もの剰余金（人件費＝のべ110名の教授を雇用できた）。この剰余金の消化のために，2010年前期に建物工事。授業中に異常な騒音。

2. 情報学部 2004 年度からプログラム制（第3期カリキュラム，学部一体型）

(1) 第3期カリキュラム。学部一体のプログラム制。

情報学部は，4年ごとにカリキュラムの改訂。

第1期：情報社会学科＝コンピュータと英語を強化した教養学科	1－4期
第2期：多様なニーズ（文系から理系まで）に対応した情報社会学科	5－8期
第3期：情報社会学科のアイデンティティを見失った情報工学部	6－9期
第4期：プログラム制のマイナーチェンジ，大学院のプログラム制	10－

(2) プログラム制 2学科3プログラム制

3つのカリキュラムから選択できる

CS（コンピュータ科学）プログラム	コンピュータソフト	情報科学科
IS（情報システム）プログラム	コンピュータソフトと人間社会のソフト	両学科
ID（情報社会デザイン）プログラム	人間社会のソフト	情報社会学科

漁田研は，IS主の研究室 基本は，IS4名，ID2名。現4年生だけ，IS4名，CS2名。

3. 漁田と漁田研究室

(1) 2003年度の卒研究生（2002年2月）から，ゼミ希望者が激減

卒研究生： 2003年度（5期）2名，2004年度（6期）3名，2005年度（7期）3名

漁田の居場所がなくなっただけで、情報学部を離れることを本気で考えた。

(2) ところが、2006年度(8期)から希望者が激増(2005年2月)。博士課程希望の修士も合格(2005年8月)。プログラム制になっても、希望者の定員オーバーは続く。さらに中国人留学生の激増。

(3) 2009年から、創造科学技術大学院(博士課程)の兼務が承認された。酒井君を名実共に指導できるようになった。さらに、2010年から、社会人の博士学生が2名(含む森井君)入ってきた。彼らは、長期履修のため、漁田の定年までいる予定。もう情報学部を出られない。

4. 漁田および漁田研究室の研究

漁田の研究テーマは、一貫して文脈依存記憶機構の解明。現在、文脈依存効果の記憶研究では、チーム漁田・漁田研は世界1 (<http://www.ia.inf.shizuoka.ac.jp/isarida/personal/work.HTM> 参照)。

(1) 複合場所文脈操作： 国際誌に4編

場所(広くて明るい部屋と狭くて薄暗い部屋)・副課題(暗記と一緒にやる課題で操作)・実験者を組み合わせて文脈を操作。

・場所のみの操作よりも、場所+課題の操作で安定して文脈依存記憶を検出できる。

Isarida & Isarida (2004). *Memory*

・さまざまな記憶現象が、文脈内で観察できるが文脈外では消失あるいは著しく減少する。

学習時間効果： Isarida (2005). *Memory*

新近性効果： Isarida & Isarida (2006). *Memory & Cognition*

(リハーサル効果：漁田 (1992). 心理学研究；反復の分散効果：漁田・森井 (1986). 心理学研究)

・複合場所文脈と単純場所文脈(場所単独操作)は機能が異なる。

Isarida & Isarida (2010) *Quarterly Journal of Experimental Psychology*

・再認弁別における複合場所文脈の効果(現在投稿中：Isarida, Isarida, & Sakai)

(2) 背景色の文脈依存効果： 国際誌に2編

・自由再生における背景色文脈依存効果(世界初)： Isarida & Isarida (2007). *Memory & Cognition*

上記の継承発展研究： Sakai, Isarida, & Isarida (2010). *Memory* (酒井君が博士号取得予定)

・再認における背景色文脈依存効果：

漁田・尾関 (2005). 心理学研究；漁田・漁田・岡本 (2005). 心理学研究

(3) BGMの文脈依存効果

・漁田俊子がこの研究で博士号取得(漁田・漁田・林部, 2008 認知心理学研究)。

・現在、研究室のメンバーが最も好んで取り組んでいるテーマ。

近日中に論文化予定の研究：再認におけるBGM文脈依存効果(世界初) 西村君の修論テーマ
楽曲の熟知性の効果

(4) 匂いの文脈依存効果

・最近の研究テーマ 卒論を認知心理学会で発表(2件)

締めの実験を加えて論文化の予定

(5) その他のテーマ

・フォント文脈依存効果 3年次の実験と卒論を学会発表。

・単純視覚文脈依存効果 フォントの実験と合わせて論文化の予定

・ビデオ文脈依存効果 Smith & Manzano (2010) の問題点の指摘。再認での検討も含めて、論文化の予定。

(6) 最近では、国際誌の審査も依頼されるようになった。上のSmith & Manzano (2010)もその1つ。はじめて国際誌に載った時の審査者の1人が、当時文脈依存効果研究の第1人者のSmithだった。そのことを考えると、感慨がわいてくる。